

平成22年3月4日 発行：猪の瀬戸湿原再生実験野焼き実行委員会事務局

実験区の火入れ活動無事終了

昨年の塚原地区野焼き事故以来、野焼きに対する事故防止が緊急の課題として取り上げられ、行政と実施団体が知恵を出し合って継続できる方向を検討してきました。当猪の瀬戸湿原も小面積とはいえ火入れ活動を行うため種々の条件をクリアしなければならず、当日までいろいろ苦勞いたしました。実施日の2月28日は前夜までの雨もあがり早春の陽ざしの中で、別府市消防署からの注意事項を忠実に守って無事終了いたしました。

9:30 RVアメリカンに集合して車で現地へ移動し、まず、参加者を名簿で確認し、避難経路を把握、風速、湿度を測定（いずれも基準値をクリア）、シューター（10機）に給水、ひぼての作成、火入れ区周辺の枯草除去等作業手順に従って準備しました。火入れはツルヨシ群落、オギ群落、ヨシ群落の順に行いましたが、午前中のツルヨシ群落は前日までの雨の湿気が残っていて焼き上げるまでに1時間以上かかってしまいました。午後のオギ群落とヨシ群落はいずれも15分足らずで焼き上げることができました。



慎重を期して行われた火入れ

作業終了後、反省会を兼ねて経過報告や今後の取り組みについて話し合いを持ち14時30分閉会しました。参加者は井上理、井上隆喜、井上千鳥、内田桂、大原フサ子、小田毅、川野弘人、工藤剛、児玉清一郎、後藤勝彦、後藤利雄、定松亨、首藤宏史、生野喜和人、堤賢三、中村茂、波多野英哲、堀英樹、渡辺新十郎、内谷氏の20名でした。ご苦勞さまでした。

消火作業用ジェットシューター（6機）新調

火入れ作業時になくてはならない消火作業用のジェットシューターを6機新調して、今回の活動で威力を發揮しました。



特殊な用具で消火器材を取り扱う業者でないと販売していません。今までは無理をいって消防署や他団体から借用していましたが、自然保護ボランティアファンドからの活動助成金で購入しました。少しずつですが用具も揃いつつあります。

（今回は由布市から4機借りて10機準備しました）

新しいジェットシューターを背負った頼もしい消火隊（6人衆）